

## 再帰動詞の導入

0. テーマ選択の理由 再帰動詞はこのタイトルのもとに様々な用法がぎっしり詰め込まれたテキストが多く、教員としても用例を一通り教えるのに精一杯になりがちです。学習後、「で、再帰動詞ってなんだっただろう」とすっかりしない学生もいることでしょう。今回は再帰動詞は本質的にどのような動詞であるか、これまでの授業における実践を土台に、学生のよりうまく伝える方法を考えていきます。

## 1. 事例紹介

- ・ K大学2年生2クラス 文学部34名 商学部38名
- ・ 『スペイン語の世界へようこそ』村上陽子他、週2時間（文法・会話）
- ・ 出席率は非常に良く、毎回宿題を出し、次の時間に答え合わせ。
- ・ 春学期（14週）の主な学習項目は1 **gustar**型動詞 2 再帰動詞 3 現在分詞 4 過去分詞と現在完了 であった。
- ・ 春学期の学習目標は、別紙アンケートにある各項目の理解であった。

## 2. 鈴木授業における再帰動詞の導入例

来週から、第2課再帰動詞に入ります。

再帰動詞というのは、動詞の原形の後に **se** が付いたものです。例えば、**levantar** というのは通常の動詞で、「起こす、立てる、上げる」というような意味ですが、それに **se** を付けた動詞 **levantarse** は再帰動詞です。**levantarse** は「起きる、立ち上がる」というような意味です。

ここまで言ったことをまとめます。

**levantar** 「起こす、立てる」 → **levantarse** 「起きる、立ち上がる」

つまり、ある動詞の原形の後に **se** を付けると、その動詞は再帰動詞になります。その際、動詞の意味が少し変わります。どう変わるのか？という点ですが、例えば **levantarse** については、

**levantar** 私は6時に弟を起こします。（起こす対象は自分でない）

**levantarse** 私は6時に起きます。（自分自身を起こしている）

と考えることができますが、すべての再帰動詞がこのようであるわけではありません。

p.89にある、再帰動詞の表を見てください。すると、これまでに学習した動詞がいくつか見つけられると思います。

**comerse** 食べ尽くす ← **comer** 食べる

**escribirse** 文通する ← **escribir** （手紙などを）書く

**irse** 立ち去る ← **ir** 行く

llamarse ~という名前である ← llamar 呼ぶ、電話する

ponerse 着る、身につける ← poner 置く

verse 互いに会う ← ver 会う、見る

これらを見ると、再帰動詞になっても、元の動詞と完全に別の意味になってはいないということがわかります。llamarse と llamar については、一見関係がないように見えますが、(と言って、呼びかけの実演をする。)

つまり、

1. 動詞の原形に se を付けると再帰動詞になる。
2. その際、意味が少し変わる。
3. どのように変わるかは、動詞による・文脈によるので、
4. 辞書で確認することができる。

では、来週からはテキストの第2課に入り、再帰動詞の活用から学習します。

### 3. アンケートの集計結果

- ・ 最終授業の前の回に配布、最終授業時に回収
- ・ 記名式とした。

文学部 (34/34 回答)

商学部 (36/38 回答)

(単位=%)

|      | 1         | 2         | 3         | 1         | 2         | 3  |
|------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|----|
| 設問 1 | <u>45</u> | 44        | 0         | <u>56</u> | 44        | 0  |
| 設問 2 | 15        | <u>47</u> | 38        | 14        | <u>64</u> | 22 |
| 設問 3 | 12        | <u>59</u> | 29        | 14        | <u>56</u> | 30 |
| 設問 4 | 38        | <u>50</u> | 12        | <u>56</u> | 33        | 11 |
| 設問 5 | <u>56</u> | 23        | 21        | <u>56</u> | 33        | 11 |
| 設問 6 | 18        | <u>41</u> | <u>41</u> | 25        | <u>53</u> | 22 |
| 設問 7 | 41        | <u>50</u> | 9         | <u>47</u> | 39        | 14 |
| 設問 8 | 35        | <u>56</u> | 9         | <u>44</u> | 33        | 31 |
| 設問 9 | 21        | <u>56</u> | 23        | <u>36</u> | 33        | 31 |

#### 設問 10 回答例

(今年度、鈴木自身は授業中に、導入例で用いた表現以外には「再帰動詞は\*\*な動詞です」という表現を極力使わなかった。短期間で学習する用例があまりに広汎で、特定のイメージを最初に与えると、そこからはみ出すものを理解する妨げになるかと考えたからである。)

(文)

- ・ me, te, se を付けると、少し動詞の意味が変わることは教わったが、再帰動詞の本質は理解できていない。

用法や使い方はスペイン語を学ぶ中で身につけたいと思う。

- ・よくわかっていない。se が移動して活用するくらいにしか考えていない。
- ・動作主が自分に行う行為に対する動詞だと思います。
- ・なんでこんなにたくさんに分類するのかわかりません。
- ・自動詞的な意味を持ち、主語と再帰代名詞が同じものを指す。
- ・便利な動詞だと思う。gustar 型動詞をよく間違える。
- ・テスト勉強中にやっと理解がしっかりしてきました。ギリギリでしたが、なんとかこの春学期の全範囲を理解することができました。再帰動詞は他の文法事項より理解しやすいです。se が付いているので一目で分かるし、2通りの書き換え（注 4を指すと思われる）も、1年で勉強した目的格の文章と似ているし、アクセント記号を付ける位置も発音すればすぐにわかります。（注 最終成績が文法 23, 会話 26, 合計 49 ポイントで単位を取得できなかった学生）

(商)

- ・動作の対象が自身のもを表す動詞。（注 複数が同様の回答）
- ・主格にあたる人が自身で何かをする時に使用する動詞。他人にしてもらう、他人にする行為はこれに当てはまらない。
- ・再帰動詞は英語の自動詞で、再帰動詞にしなければ他動詞だという感じだ。
- ・自分を～させる動詞。
- ・主語と動詞の目的語が一致する。
- ・スペイン語独特だと思う。語感がいいので読みやすいが、目的格代名詞がからむとよくわからなくなる。
- ・弱い代名詞が付く動詞
- ・最初は難しそうなイメージだったが、やってみるとそうでもなかった。
- ・受動態が使える。
- ・日常の動作を表すのが再帰動詞だと思います。
- ・主語が後に付く動詞。受身や強調で使われる。
- ・いまいわからない。（注 複数が同様の回答）

鈴木感想

- ・意味による分類の面では、A.基本的用法は理解し、イメージのようなものをつかんでいる学生が多いが、B.派生的用法以降は理解が難しい。
- ・設問2は、項目を分けておくべきだった。
- ・作文においては、活用や弱い代名詞の位置を含め、時制が変わっても対応できるようである。
- ・記述の回答について。優等生的な答えが多い。「どこがわかりにくいか」を質問した方がよかったかもしれない。

#### 4. *Nueva Gramática Básica de la Lengua Española* (2011)における再帰動詞の扱い

- ・ 再帰動詞 *verbo reflexivo* という呼称は使われず、それに代わるものとして代名動詞 *verbo pronominal* という語を用いている。
- ・ 再帰動詞または再帰代名詞の、文の意味の面からの説明や分類がほとんどない。
- ・ 一般的なテキストで「再帰動詞」として教えられている項目を、次のように分類している。

(第2部 語)

i 再帰代名詞 (+動詞) Yo me conozco bien.

Laura se pinta.

Laura se pinta los ojos.

ii 相互の代名詞 (+動詞) Todos los compañeros nos respetamos mucho.

Carlos e Irene se aman.

Esta familia se odia.

(第3部 統語)

iii 代名動詞 p.102 に例として *quejarse, preocuparse, vanagloriarse, acordarse*

p.227 では *me, te, se, nos, os, se* とともに活用する動詞で、次の2種類に区別できるとある。

- ・ 代名動詞の形式のみを持つもの(*abanzarse, abstenerse, arrepentirse*)
- ・ 代名動詞でない形式を併せ持つもの(*decidir y decidirse, esconder y esconderse, olvidar y olvidarse, lamentar y lamentarse*)

iv 変化しない *se* とともに構成される文

(1)再帰受身文 Las noticias se recibieron ayer.

Se dice que habrá elecciones.

Se curan las heridas.

(2)再帰無人称文 Se vive bien siendo estudiante.

Se cura a los heridos.

- ・ また、「強意、転意再帰」は分類が不明であるが、次の説明がある。

p.103 弱勢代名詞の語順 (上から順に優先順位が高い)

a) *se* は常にそれ以外の代名詞に先行する。Se te va a caer el pelo.

b) *se* 以外の代名詞は 2 人称 > 1 人称 > 3 人称の優先順位がある。

No te me vayas. No te lo comas. No me lo creo.

c) 与格は対格に先行する。Te lo enviaron.

d) 代名動詞のそれを含む再帰代名詞は、残りの接語代名詞に先行する。Te me acercaste.

次の質問に 1 理解できている 2 大体理解できている 3 あまり理解できていない のいずれかで答えてください。

- 1 再帰動詞の基本的な用法が理解できる。 ( )

例文 Me levanto a las siete de la mañana. / Me lavo las manos.

- 2 再帰動詞の派生的用法のうち、相互再帰、強意再帰、常に再帰動詞として使われる動詞が理解できる。

例 Mis padres se quieren mucho. お互いに愛し合っている ( )

Ya me voy. 立ち去る / Ella se queja de todo. 文句を言う

- 3 再帰受け身が理解できる。 ( )

例 Se alquilan bicicletas en esta tienda. 自転車がレンタルされている。

- 4 不定詞と弱い代名詞の位置が理解できる。書き換えができる。 ( )

例 Nos vamos a casar en junio. = Vamos a casarnos en junio.

Lola quiere cortarse el pelo. ロラは髪の毛を切りたい。

→ Lola se lo quiere cortar. = Lola quiere cortárselo.

- 5 gustar 型動詞と再帰動詞を区別できる。 ( )

例 Me gusta el fútbol. gustar は再帰動詞でない。

- 6 se + 動詞の三人称単数形「人は～する」の文と再帰動詞を区別できる。 ( )

例 Se vive muy bien en este país. Se vive は再帰動詞でない。

(この国では人は良い生活をしている。)

- 7 現在進行形で再帰動詞を使うことができる。その際弱い代名詞の位置や、アクセント記号の有無がわかる。 ( )

例 ducharse シャワーを浴びる → Sandra está duchándose. = Sandra se está duchando.

- 8 現在完了形で再帰動詞を使うことができる。その際弱い代名詞の位置を理解している。( )

例 Me he levantado a las seis. 私は6時に起きました。

- 9 再帰動詞の過去分詞を形容詞として用いる用法が理解できる。 ( )

例 sentarse 座る → los hombres sentados en el sofá ソファに座った男達

- 10 あなたは今のところ、再帰動詞はどのような動詞であると理解していますか。間違っても構わないので、自分の印象や考えを書いてください。(裏面使用可)

## 9月6日 TADESCA における話し合い（まとめ）

参加者は発表者を含め6名

- ・ 2. 「動詞の原形に **se** を付けると再帰動詞になる」という説明に関して。再帰動詞でない動詞にまで、**se** を付けてもいい、という誤解を生むのではないかという指摘があった。（例 **Me levanto y me desayuno.** など）これについては、**se** を付けるのは、元の動詞の意味を多少なりとも変えるための操作であることを強調すれば、むやみに **se** を付けることを防げるのではないか。
- ・ 3. アンケートの集計結果について。期末試験の内容が提示されたら議論がしやすかったという提言があった。設問6の「**se**+三人称単数動詞」の不定人称文において、この **se** をどう説明したら学生に理解しやすいかを話し合った。
  - ・ また、再帰動詞の各用例をどう分類し、どのような切り口で説明するとよいか、感情を表す再帰動詞をどう扱うか、を話し合った。
- ・ 4. **Básica** の記述内容について。伝統的に日本で教えられている分類と異なっている点を確認した。ただ、**Básica** においても明確な分類や説明がなされているわけではなく、曖昧な部分が残るようだ。いずれにせよ、教える際には当然テキストの記述を尊重する。同時に、教員がよりよく再帰動詞（またはその他の文法項目）を理解し、説明の選択肢を広げておくことが、よりよい授業を行うためにはぜひ必要である。